

「アイズ／THE EYE」 ★★

2008（平成20）年11月3日鑑賞＜ホクテンザ2＞

監督：ダヴィド・モロー、ザヴィエ・パリュ
シドニー・ウェルズ（盲目のバイオリニスト）／ジェシカ・アルバ
ポール・フォークナー（精神科医）／アレッサンドロ・ニヴォラ
ヘレン・ウェルズ（シドニーの姉）／パーカー・ポージー
2008年・アメリカ映画・97分
配給／ムービーアイ

＜ジェシカ・アルバに惹かれて行ったが＞

『ファンタスティック・フォー』（05年）や『ファンタスティック・フォー 銀河の危機』（07年）の、マンガみたいなキャラやストーリーはイマイチだった（『シネマルーム8』131頁、『シネマルーム15』34頁参照）が、『シン・シティ』（05年）（『シネマルーム9』340頁）、『イントゥ・ザ・ブルー』（05年）（『シネマルーム9』334頁）でのジェシカ・アルバの魅力は相当なもの。日本では、20代の注目女優、綾瀬はるかが『I C H I』で盲目の女剣士座頭市に挑戦しているが、その向こうを張るかのように（？）、ジェシカ・アルバが盲目のバイオリニスト、シドニー・ウェルズに挑戦！

とはいっても、幼い頃の事故が原因で光を失ったシドニーは、姉のヘレン・ウェルズ（パーカー・ポージー）の勧めで今、角膜移植手術を受けることに。

これによってめでたくシドニーの視力は回復することになったのだが、その目には現実世界だけではなく、さまざまな幻が見えてきたから大変。さて、これはナニ？その原因は？これでは、目が見えなかった時の方が幸せ？シドニーはそんなふうに苦しんでいくことに・・・。

そんなちょっと難しい役にジェシカ・アルバが挑戦したが、さてその出来は・・・？

＜ドナー捜しは厳禁のはず＞

日本では愛媛県宇和島市立病院の万波誠医師による病気腎移植が大問題となり、日本移植学会、日本泌尿器科学会、日本透析医学会など4学会は万波医師を非難する声明を合同で発表したが、私は断固万波医師を支持！

だって、現に病気腎移植によって助かる人がいるのだから、形式論ばかりふりかざして、それを非難するのはナンセンス。もっともこの場合でも、ドナー（臓器提供者）が誰かを明かしてはならない、というのは最低限のルール。

ところがこの映画では、シドニーへの角膜移植手術をした後の精神的ケアを担当しているポール・フォークナー医師（アレッサンドロ・ニヴォラ）はシドニーからの強い要請を受けて共にドナーの手がかりを探しに行くことになるから、医学的・法律적으로는かなりヤバイお話。そこで問題は、シドニーはなぜドナー捜しにこだわったのかということだが、そのヒントは、次に述べる「細胞記憶」にある。

＜細胞記憶とは？＞

角膜移植を受けて光を取り戻したまではよかったが、シドニーが今悩まされているのは、時としてその目には、カフェで襲いかかってくる中年女性や、成績表を探しまわる少年など、奇妙で恐ろしいものが突然見えてくること。ポール医師にそんな危険を伝え、中華料理店でじっと待っていると、その店がいきなり炎に包まれたから大変。しかも角膜移植手術の成功後、夜中の1時06分になると決まってそれまで見たことのない殺伐とした風景がシドニーの目の前に。こりゃ一体ナニ？

これこそが、「細胞記憶」というものらしい。つまり、臓器移植を受けた患者にドナーの記憶や性格が現れるというのが細胞記憶だ。映画の中で語られるポール医師の言葉によれば、「心臓や腎臓などの主要臓器ではあり得るかもしれないが、角膜は主要な臓器じゃないから、それはあり得ない」とのこと。しかし、現にシドニーの目に映るものはシドニーに角膜を提供したドナーであるアンナの目に映っていた風景なのだ。

＜あっと驚くクライマックスへ＞

かなりイライラさせられる前半のストーリー展開の後、そんな核となるストーリーが明らかになると、後半の舞台とストーリーはメキシコ人女性アンナが住んでいた田舎町へと移っていく。ポール医師が医師免許剥奪の危険を犯してまでシドニーにドナーの情報を与えたのは、シドニーの言葉を信じたため。そしてシドニーと共に向かったメキシコの町でポール医師とシドニーがアンナの母親から聞かされたのは、魔女として迫害を受けたアンナの驚愕すべき物語。

実際に見えるもの以上のものが見えたアンナがその時必死に訴えていたものとは一体ナニ？さあ、映画はここから一気にクライマックスに突き進んでいくことに・・・。

＜見えないものが見える、とは？＞

ニコラス・ケイジが主演した『NEXT ネクスト』は2分前にもものが見えるという主人公の特殊能力をテーマとした映画だった（『シネマルーム19』414頁参照）が、『アイズ／THE EYE』もいわば、それに近いテーマの映画。

つまり、実際に見えるもの以上のものが見えているということは、時としてすぐそこに迫っている危険を事前に見極めることができるということ。したがって、その能力を活用すれば悲惨な出来事を未然に防止することが可能だ。そのためにはそんな特殊能力をもった女性の言葉を信じるのが大切だが、現実はその逆で、そんな奇妙な予言をする女＝魔女として危険視することが多いのでは・・・？シドニーへの角膜提供者であるアンナはそんなふうに危険視され、魔女として攻撃されたため悲惨な最期をとげることになったのだが、さてシドニーの場合は？

＜ジェシカアルバの変った役への挑戦に拍手！＞

メキシコからの帰り道、ある事件のため国境には長い車の列が。そしてそんな中、シドニーの目に見えた悲惨な結末とは？今やポール医師はシドニーの言葉をバカげた妄想と切り捨てず、100%信用しているところが強み。しかして、シドニーが察知した危険を人々に知らせるべく、シドニーとポール医師はどんな行動を？そしてそれによってもたらされた結末とは？

ほぼ想定範囲内の結着となるのが多少不満だが、こんな変った役へのジェシカ・アルバの挑戦に拍手！